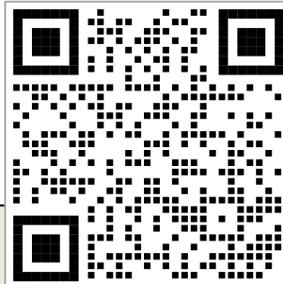


まだらの風



令和8年7月13日
学校便り No.11
校長 上田 一正



『 育てよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、つなげよう馬渡の力 』
～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～

～最近の学校行事から～

馬渡小中学校では、ほかの学校よりも体験型の行事が多くあります。島だからできること、はもちろん、それ以外の体験も充実させています。身近な環境問題の視点から、最近の学校行事を関連付けてみます。

社会科見学(中1)

(7月2日に変更して実施)
社会科見学でプラ²と唐津焼の窯元を訪問、プラ²ではプラスチックの環境問題に触れました。



漁具を含め、有機物でつくられていた道具が、石油由来のプラスチックに置き換わっている…プラごみによる海洋汚染は深刻です。日常でできることを考えました。

私たちと海洋環境

生きていく当事者として、身の回りの環境改善を図る。

海岸清掃(小・中・保)

(6月13日に実施)
学校だより第8号でも紹介していますが、親子ふれあい活動で実施し、漂着ごみの実態を改めて体感しました。



ふぐ稚魚放流(小・中)

(7月3日に実施)
「育てる漁業」と「海洋環境保全」について体験を通して学ぶ。唐ワン君も参加し、イベント性も高かったようです…ふりかえりの記述から、貴重な体験になったこともわかります。水産振興センターの方に確認したところ、平成元年から稚魚放流がつづいているそうです。



およそ半月中に実施したこれらの行事や活動(もちろん他にも行事を実施していますが)を通して、馬渡小中の児童生徒は複合的な学びができる、そのような学びの環境にあります。とても充実しているといえるでしょう。日々の学びの中から、たくさんの課題性に気づき関連付けることができるように、また、課題解決していく当事者となっていくように、これからも可能な限り体験を通して学ぶ機会を設けていきます。

～ふぐ稚魚放流体験～

上記でも触れましたが、7月3日(金)に、佐賀県玄海水産振興センターの担当者から、稚魚放流を中心に講義していただき、その後に、はえ縄船団のご協力のもと、ふぐ稚魚放流を体験しました。毎年行なっている行事なのですが、その活動の意義を感じ取り、これからの生き方にも反映していったほしいところです。関係者の皆様、ご協力くださり、ありがとうございました。

かきました。実際にフグを放流して、みんなが「大きくな、帰、てきてね」や「元気だね」などの声をかけていてフグが「大きくな、馬渡に帰、てきてくたさいいいな」と思いました。今までのフグ稚魚放流を通して、フグのことや環境